７古来風体抄（藤原俊成）

　物語にも、「の国に女と住む男、①年ごろるにのに、また行き通ふ所でにａけり。かくて通ふほどに、の女、『つたつた山』と詠めるを聞きて後、河内へも男行かずなりにければ、かの高安の女詠めるとて、

　　君が見つつをらん雲②な隠しそ雨は降るとも

と詠みてなん見出だすに、うじて ③『ん。』といヘり。」など書きてるを、④この歌また、万葉集の第十二巻の歌なり。伊勢物語はまことにあることをも書けり。また、などのは、⑤さしもなきことをもをかしきに書きなし、ものをもいはｂせ、歌をも詠ませたることもあれば、古き歌に合ひたることのある時は、その歌をいはせてもらん。

＊語注

＊河内国高安の郡…大阪府南部、八尾市のあたり。

＊沖つ白波たつた山…和歌の一部。「風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ」。

問１　――線部①･⑤の意味として最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号を○で囲め。

①　ア　年末　　　イ　数年

　　ウ　適齢期　　エ　長年の間

⑤　ア　興味深いこと　　　イ　大げさなこと

　　ウ　そのようなこと　　エ　大したことでもないこと

問２　＝　線部ａ「けり」、ｂ「せ」の文法的意味を答えよ。

ａ＝〔　　　　　〕　ｂ＝〔　　　　　〕

問３　――線部②･③を現代語訳せよ。

②＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　〕

③＝〔　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　〕

問４　――線部④について、筆者の解釈と一致するものを次から一つ選び、記号を○で囲め。

ア　作者が、物語の場面にしっくり合う万葉集の歌を掲載した。

イ　田舎人が、偶然に万葉集の歌とほぼ同じ内容の歌を詠んだ。

ウ　万葉集の第十二巻の歌の成立事情を、ここで明らかにした。

エ　田舎人が、前に万葉集で見たことのある古歌を思い出した。

オ　作者が、万葉集の中の女歌を男歌にかえてここに引用した。

【解答】

問１　①イ　⑤エ

問２　ａ＝過去　ｂ＝使役

問３　②隠さないでおくれ（隠さないでほしい）

　　　③「行こう（来よう）。」と言った

問４　ア

現代語訳　伊勢物語にも、「大和の国で女と住んでいた男が、数年経つうちに、河内国高安の郡に、ほかに通っていく所（＝好きな女の人）ができてしまった。こうして通っているうちに、以前からの女が、『沖つ白波たつた山』と詠んだのを聞いた後、河内（の女の所）へも男は行かなくなったので、あの高安の女が詠んだといって、

君が辺…＝あなたの（家の）辺りを見ながらおりましょう。（だから）生駒山を雲は（どうか）隠さないでおくれ。たとえ雨が降っても。

と詠んで外を見ていると、ようやく大和の男は『（あなたの所へ）行こう。』と言った。」などと書いてありますが、この歌もまた、万葉集の第十二巻の歌である。伊勢物語は本当にあったことも書いている。また、田舎者などの様子については、大したことでもないことまでも趣深いように書き、ものを言わせたり、歌をも詠ませていることもあるので、古歌に（その場面と）一致したものがある場合は、その歌を詠ませてもいるのでしょう。

ポイント

問３　②「な〜そ」は禁止（〜しないでおくれ・〜しないでほしい）の意。

　　　③「来ん」の「ん（む）」は意志（〜しよう）の意。